

仮想の前提：

1. 学生たちはこのテキスト本文を読んで大体理解できる程度の読解力がある。
2. 学生たちには予習課題や宿題を与えることができる。
3. Reading、Listening、Writing、Speaking を全て練習する総合英語の授業。
4. クラスの人数は 20 人弱。

この素材を使ったアクティビティ：

Week 1

- ① 学生たちは本文、CD、章末の Questions を予習してから授業に来る。
- ② 授業で本文の内容の確認（第 1 & 2 段落）。学生をあてて 1 文ずつ正確に訳していく。
1 段落訳し終わったら、内容や英文の意味を意識しながら学生が文章を音読する。学生数人に同じ文章を音読してもらう。発音の分からない単語がないように CD を予習しておくように伝える。

Week 2

- ③ 引き続き、本文の内容の確認（第 3 ～ 5 段落）。学生をあてて 1 文ずつ訳していく。
段落ごとに学生数人が同じ文章を音読。
訳読しながら、内容について学生に質問を投げかける。
「最初にタイトルを見たとき、Gated Communities とは何のことだと思いましたか？」
「本文によると、Gated Communities とは何ですか？」
「Gated Communities についてどう思いますか？」
- ④ 作文&プレゼン課題（宿題）を出す。
「読んできた内容について、自分の意見を書いてください（100～150 語の英文）。
Do you agree or disagree with the author's idea that "it might be better to try to find ways to integrate [gated communities] into the larger social framework of our expanding urban environemnts than to complain about them"? 」
翌週の授業の前日までにメールで講師に提出。

Week 3

- ⑤ 添削した作文を学生に返却。PC 教室で、学生に自分の原稿をパワーポイントに入力させる。
このとき、英語のミスがないように気をつけること、デザインは個人で工夫することを伝える。
パワーポイントは翌週の授業の前日までにメールで講師に提出。

Week 4

- ⑥ パワーポイントをスクリーンに映し出しながら学生がひとりずつ原稿を読み上げ、発表する。
各発表のあと、講師が英語で 2 ～ 3 質問する。

補足：

1. 全体的に読解重視→発展（作文・プレゼン）の授業。
2. 訳読のときは、（学生が寝ないように）全員に自分流の全訳を書かせながら進めるのも一手だが、学生のやる気のレベルが高ければ必要ないかもしれない。また、読解のあとに、CD をかけて本文の穴埋めディクテーションを行い、英語がどれだけクリアに聞き取れるようになっているかを試すのも面白いかもしれない。
3. パワーポイントに原稿を入力して映し出すと、他の学生がフォローしやすい。

2010年5月1日(土)

埼玉学園大学非常勤講師

下村 美佳

- ・英語を苦手とする学生を対象にすると仮定する
- ・授業回数は2回以上行くと仮定する。

1、 テキストの内容を理解する

- ① **Gated community** とはどのようなものか、予備知識として日本語の説明プリントを配布
- ② テキストを読む
予備知識がある場合とない場合での理解の比較
→ **Unit 9** は学生にとって馴染みの薄い題材のため、予備知識をしっかり持たせてからテキストを読む方が理解しやすい。
- ③ **Gated community** に関する他の資料(英文)を配布する
→ あくまでも参考資料として配布し、各自の判断で活用させる

2、 知識を自分のものにする

個人もしくはグループで以下の問題について考えてみる

- ① **Gated community** のメリットとデメリットを考える
メリット・・・安全性。隣人への関心の高さ。など
デメリット・・・精神面でも外部と壁を作ってしまう。など
- ② どのような現代社会の問題に通じているか。
→ 社会の差別化の助長、など
- ③ それぞれの意見を発表する

※ 発表内容は学生各自の判断にまかせ、特定の意見を正解とはしない。

テキストの内容をきちんと理解しその知識を自分のものとする努力を積み重ねることで、結果的に読解力の向上につながり、英語に対する苦手意識を克服することができるのではないか。

Unit 9: *Gated Communities*

1. 「その素材、どう料理する？」

1.1 授業の目的：アメリカ合衆国の制度・文化・社会慣習などに触れながら、主としてリーディング力を高める。同時に、授業中の様々な活動を通してリスニングやスピーキング力などの改善を行う。

1.2 手順 (Unit 9 を一授業時間で学習するという想定)

- (1) 前の週に、今回の教材でも紹介されている **Llewellyn Park** のホームページを提示して、各自読んで面白いと思ったことや印象に残ったところを3点ずつ書いてくることを宿題とし、授業の始めにイントロダクションとして、4人程度のグループで情報交換をさせる。時間が許せば、クラス全体で共有。
- (2) 教科書本文を見せずに、朗読テープを聞かせてリスニングの練習。簡単な質問を書いたワークシートを作成し、記入させるとよい。
(例：What are three main types of gated communities?)
- (3) 教科書に沿って授業を進める。テープについての音読→段落ごとに英語(日本語)で要約→Questions をさせて答え合わせ。基本的には訳読という方法をとらず、難しいと思われるところや質問があったところのみ、構文の説明や和訳をする。
- (4) 語彙の習得を促すために毎週あるいは隔週で、小テストを実施する。
- (5) 上級者のための発展学習として、*New York Times* などに載った **Llewellyn Park** の記事を教師がコピーしてきて授業で読む。

2. 平行して別の教材(副教材)を使う

2.1 提案

中上級者向けのクラスでは、別の教材、たとえば、その学期で一冊読み切れるようなペーパーバックを用意し、毎時間20分前後を当てるのはどうだろうか。メインのテキストが比較的平易なものであっても生徒は飽きることなく90分間学習することができ、また、担当教員も自分の専門や信念を反映した授業を行うことができる。

2.2 実践報告

2.2.1 コンテキスト：大学1年生対象(中上級)のリーディングとリスニングに焦点を当てた授業で、メインの教科書は *Stranger than Fiction* (南雲堂)。

2.2.2 副教材と使い方：アメリカで人気のある児童書 Louis Sachar, *There's a Boy in the Girls' Bathroom* を用いる。5人ずつのグループを作り、5つの役割(Chapter Titles, Vocabulary, Questions, Picture/Map, Summary)をそれぞれ週毎に担当。教師の指定する箇所(毎週20ページ程)を読み担当のタスクをやってきて、授業中にグループ内で発表・討論。

2.2.3 生徒の反応1：「授業の一部を使って比較的易しいペーパーバックを読むことをどう思いますか？」(好ましい—16/25人、まあ好ましい—8/25人、無回答1人/25人)

- 内容や英語自体が異なる二つの教材で学べたので飽きずに楽しく学習できた。

生徒の反応2：「両教材を比較して感じたことを自由に書いて下さい。」

- メインの教科書では語彙や文法を学べたが、副教材で実用的な表現(会話など)を学ぶことができた。副教材は生きた英語だと感じた。
- 前者では精読が主で要約の力などがついた。副教材を用いた学習では、たくさん読む力、速読の練習になった。ディスカッションの力がついて役立った。
- 答えがある教材とそうでない教材の両方で学習でき、有意義だった。

May 1, 2010

“Gated Communities”を使った授業案

高橋 和子

(東京大学大学院博士課程, 前西南学院大学助教授)

0. 設定

- ・英語関連分野を専攻していない1年生の「一般英語」。
- ・受講者30名程度。中級レベル。
- ・普通教室（可動式の机と椅子がある）

1. 授業前に出す課題：本文を最低2回読む，問1・2を解く

- ① 本文の読解（1回目）：skimを意識した読み（the main ideaの把握）
- ② 本文の読解（2回目）：scanを意識した読み（a particular piece of informationの把握）
- ③ 問2（Passage Order）と問1（Vocabulary Matching）を解く
問1は，各単語が本文のどこにあるか探してから，文脈に沿った意味を選ぶように指示

注：問2は主に skim の結果を試し，問1は主に語彙力のほか scan の結果を試す問題として活用する。なお，各パラグラフに何が書いてあったか，余白に要点を英語(または日本語)でメモしておくことを指示する

2. 授業(90分間)の活動プラン（⇔は，活動を行なう際のやりとりを指す）

- ①宿題の確認
 - ・英語使用の Q and A。教師⇔学生
- ②リーディング
 - ・日本語使用。教師⇔学生
 - ・宿題で各自が書いた余白のメモを用いながらテキスト全体の内容を把握する。
 - ・大意をつかむほか，解釈の難しい箇所は文法構造なども確認する(2箇所程度)

③ディスカッション：グループ・ワーク

- ・英語使用。学生⇄学生
- ・問3（True or False; グループごとに課題を分担して解答）
- ・問4（Content Questions; グループごとに課題を分担して解答）

④リスニングとスピーキング：グループ・ワーク

- ・英語使用。教師⇄学生，学生⇄学生
- ・本文の英文を聞く（事前に，誤りやすい語彙の発音を明示しておく）
- ・“Jump-in-reading”

④ライティング：要約用のワークシートを用いた課題

- ・本文の大意を英語と日本語でまとめる（残りは宿題に委ねる）

3. 授業後に出す課題

- ・授業中に出した課題(要約)の完成

4. その他：教員が工夫したい点

- ・当教材の設問は，本文の初めから順番に読んでも解答がみつからない問題が大部分である。初級・中級レベルの受講者の場合，各設問の順番を入れ替えれば，若干解答しやすくなると思われる。

- ・問5（Multiple-choice Questions）は，多様な表現力を身につける上で役立つが，本文と内容上のつながりがないため，状況に応じて本文と関連性を持たせる活動に転換したい。

- ・丁寧な語注がついているため，逆に状況に応じて単語を調べる課題を出す必要があると思われる。

・“gated community”は多くの日本人学生にとって，背景が実感できないと思われる。他国の事情を知る上では有益だが，題材を身近に感じさせる工夫も必要であろう。（たとえば日本の文化には「路地裏」，「長屋」などのコミュニティがかつて(所によっては今も)あったことなどを示す資料を合わせて示すなど。）

教室で用いる題材は，異文化理解に役立つだけでなく，受講者1人1人にとって「人ごと」ではない親近感を与えるための配慮が大切なのではないだろうか。

**日本英文学会関東支部 5 月例会「若手大学教員のためのワークショップ」
(2010 年 5 月 1 日 於:東京大学駒場キャンパス)**

グループ2 慶応義塾大学経済学部 迫 桂

教案

HW for #1

- 1) Write a summary of the passage.
- 2) List as many types of community as you can think of (eg. neighbourhood, school).
- 3) Read the Guardian article on recent incidents of the murders by local youths in the UK – Think why this happened.
- 4) Based on 2) and 3), think what makes a good community.

#1

- 1) Peer-editing of the summary before submitting it to the tutor (10 minutes)
- 2) Ask students what types of community they have come up with (3)
- 3) Group discussion (1) about the news article: Why do you think the murders happened? What was wrong with the communities in which they took place? (10)
- 4) Report of the discussion results to the class by each group (5)
- 4) Group discussion (2): What bind a community together? What makes a good community? (20)
- 5) Report of the discussion results to the class by each group (5)
- 6) Instruction on the next class (debate exercise) (12)
(Explanation of the proceeding of a debate; proposition; making up groups; assigning the roles of the chairperson and the judges)
- 7) (Either in the Library or in the computer room) Group research work (25)
 - Find the three works mentioned in the passage: a book by Setha Low and another by Blakely and Snyder, and the research results of the London Research Focus Group
 - Search and locate the news articles written on gated communities.
 - Find out as much information as possible on gated communities, in order to prepare for the debate in the next class.

HW for #2

- 1) Prepare for the debate (further research on gated communities; collecting and sorting out the materials; anticipating the arguments of the opposing team, etc)
- 2) Go through a list of useful expressions for debating

#2

- 1) Confirm the roles of the chairperson and the judges (5 minutes)
- 2) Go through a list of useful expressions for debating (5)
- 3) Start the debate on 'Do gated communities contribute to creating better communities?' (50)
- 4) The judges' verdict and comments (10)
- 5) The tutor's comments (10)
- 6) Announcement of HW for the next class

2010年5月1日(土) 13:00-15:30 若手大学教員のためのワークショップ 第3回

「その素材、どう料理する? — 教材徹底討論」

於: 東京大学駒場キャンパス

課題テキスト: _Current Issues and Topics_

Peter Duppenthaler 著、大阪教育図書 2008年 1,600円より

Unit 9 "Gated Communities"

- 1 パラグラフごとに小さな質問を設定し、教科書を見ないでCDを聴いて答える。
- 2 一文を音読し訳す。一文につき一人ずつ。文法の説明を丁寧に。
- 3 一パラグラフの読解が終わったらCDを通して聴く。教科書を見ても見なくても可。
- 4 一ユニットの読解が終わったら、パラグラフの構成を振り返り、各パラグラフの要点を短文で表現。できるなら英語でもよいが、要点を理解することを重要視し、日本語でもよしとする。
- 5 筆者が Gated Communities に賛成か反対か考え、修辞法についても注意する。
- 6 4人ほどのグループで賛成か反対か話し合い、発表する(学生のレベルによっては英語可)。
*ここまでで二コマ程使う。
- 7 以前にパラグラフの構成法を学習しているという前提で、「理想の gated communities」とか「gated communities に賛成か、反対か、その理由は」といった主題でパラグラフを各自授業時間以外で作成する。ワープロの書式設定の方法や、MLA に準じたフォーマットも教えておく。(時間が残った場合、次のユニットに進む)
- 8 4人ほどのグループで最も優れたパラグラフを選ぶ。その際選んだ理由を明確にする。できるなら英語でもよいが、選んだ理由を論理的に説明することが主眼なので日本語でもよしとする。
- 9 選ばれたパラグラフを書いた人が発表(人数が少ない場合は全員発表でも可)。(残った時間で次のユニットをさらに進む)
- 10 教員がパラグラフを持ち帰って添削・採点する。その際書式とパラグラフの構成を重視する。授業にて全体的なコメントを述べた後、学生一人一人に個別指導をしながら返却する。(1コマ使う)
- 11 学生は各自修正し再提出する。教員は修正版の採点をする。二度目の採点では修正がよくできているかを重視する。